

3 / 26

手話にふれて、 伝わる思い

第1回ぬくもりある手話フェスティバル

3月26日(日)、市民活動センターで『第1回ぬくもりある手話フェスティバル』(同実行委員会主催)が行われました。

この催しは、市が平成28年4月1日に施行した『差別市ぬくもりある手話条例』に基づき、多くの方に手話を知ってもらうため、聴覚に障がいのある方とない方が交流を深めることができるよう開催されたものです。

初開催のこの日は、市内外から約40人が参加。登別聴覚障がい者協会の山田隆会長による『聞こえない暮らし』をテーマとした講演をはじめ、身振り手振りで伝達する『ジェスチャーゲーム』、簡単なあいさつや自己紹介などを学ぶ『手話講座』、歌に合わせて手話をする『手話コーラス』などが行われ、参加者は、手話について少しずつ理解を深めながら、有意義な時間を過ごしました。

保護者と一緒にきょうだいで参加し、コミュニケーションの方法を学んだ石崎遙さんと真琉さんは、「手話は楽しかった。分かりやすかったから、一日でいっぱい覚えたい」と話していました。



▲あいさつや自己紹介などの簡単な手話を学んだ『手話講座』



▲言葉を発せず、体の動作(手話は禁止)だけで伝達した『ジェスチャーゲーム』

新校舎に笑顔あふれる

鷺別小学校落成セレモニー・入学式

4 / 7

4月7日(金)、新校舎となった鷺別小学校で、落成セレモニーと入学式が行われました。

同校は、耐震工事による耐震化の対応が難しいことから、建て替えを決定。学びの機能に加え、防災・地域交流としての機能も充実させ、完成したものです。

体育館では、地域住民などの関係者7人による落成を記念したテープカットが行われた後、引き続き行われた入学式では、新たな学校生活に期待あふれる新1年生52人が入場。神谷博達校長から「立派な校舎でたくさん勉強して、立派な小学生になりましょう」と式辞が述べられました。



▲住民異動の手続きをする新入生

新生活開始のお手伝い

住民異動届の出張受付

4 / 7

4月7日(金)、日本工学院北海道専門学校で、市による『住民異動届の出張受付』を行いました。この取り組みは、同校の新入生が住民異動の手続きに苦勞をすることなく新たな生活を始めるよう、学生寮への入寮者を対象に平成23年から毎年行っています。今年は55の方が利用しました。

公務員2年制学科に入学した木村泰正さんは、この出張受付で住民異動の手続きを済ませた後、「将来を見据えて、勉強中心の生活でがんばりたい」と、新たな学校生活への意気込みを話してくれました。



▲新しくなった鷺別小学校新校舎(①)、落成セレモニーでテープカットを希望する関係者(②)、笑顔にあふれる新1年生(③)

